

# JA全厚連情報

(毎月 1日 発行)

No.1120 2022年10月1日

## 目 次

- 医薬品の値引き交渉等について研修 1  
    医薬品セミナーをWEB開催
- 2022年度診療報酬改定等について研修 2  
    厚生連病院事務部長セミナーをWEB開催
- 財務会計の応用について研修 4  
    厚生連経営管理職層育成研修会（応用編第1クール）をWEB開催

### ・通信員だより

- 入院支援室が新しくなりました（秋田厚生医療センター） 5
- 医事課業務改善への取り組みと報告会の開催（能代厚生医療センター） 6
- 第70回福島県農村医学会学術総会 初のWEBにて開催（JA福島厚生連） 7
- 第80回関東農村医学会学術総会（茨城西南医療センター病院） 9
- 阿部看護部長がタウンニュースの取材を受けました（相模原協同病院） 10
- 看護学生対象のインターンシップを開催（相模原協同病院） 11
- 伊勢原協同病院薬局主催で地域医療連携薬局研修会を開催（伊勢原協同病院） 12
- 岐阜県「地域医療を支える人づくり事業」の実施について（中濃厚生病院） 13
- 各事業所にて永年勤続表彰を行いました（JA愛知厚生連） 14
- 敷地内薬局工事安全祈願祭を行いました（渥美病院） 15
- 「ギフトィッドたちの作品展」を開催しました（海南病院） 16
- JA香川県から寄付をいただきました（JA香川厚生連） 17



### 全国厚生農業協同組合連合会

〒100-6827 東京都千代田区大手町1-3-1 JAビル

TEL (03) 3212-8000 FAX (03) 3212-8008

E-Mail: shien@ja-zenkouren.or.jp

(経営支援グループ)

<http://www.ja-zenkouren.or.jp>

編集責任者 中村 純誠

# 医薬品の値引き交渉等について研修

## 医薬品セミナーをWEB開催

本会は8月30日、医薬品セミナーをWEBで開催し、18厚生連から67名が参加した。

本セミナーは、薬剤師等の資質向上を目的に開催しており、当日は「薬剤長のための法的知識の基礎」(赤羽根秀宜・中外合同法律事務所代表弁護士)と、「メーカーの価格防衛策を打ち破れ(ウクライナ問題等を踏まえて)」(中野一夫・株式会社ヘルスケア・システム研究所相談役)の講演2題が行われた。

この中で赤羽根氏は、(1)薬剤師の法的責任、(2)薬剤師の義務、(3)タスク・シフト/シェアについて説明を行った。

特に(3)では、プロトコール(事前に予測可能な範囲で対応の手順をまとめたもの)に基づく代行入力や、糖尿病患者等における自己注射や自己血糖測定等の実技指導などが可能であるとの説明があった。

中野氏は講演で、ウクライナ問題の影響等から、医療分野の経済安定保障の確立は急務であると述べ、具体的な事例を示しながら、メーカーやディーラーと価格交渉を行ううえでの情報収集の重要性等について説明を行った。



赤羽根氏講演の様子



中野氏講演の様子

## 2022年度診療報酬改定等について研修

### 厚生連病院事務部長セミナーをWEB開催

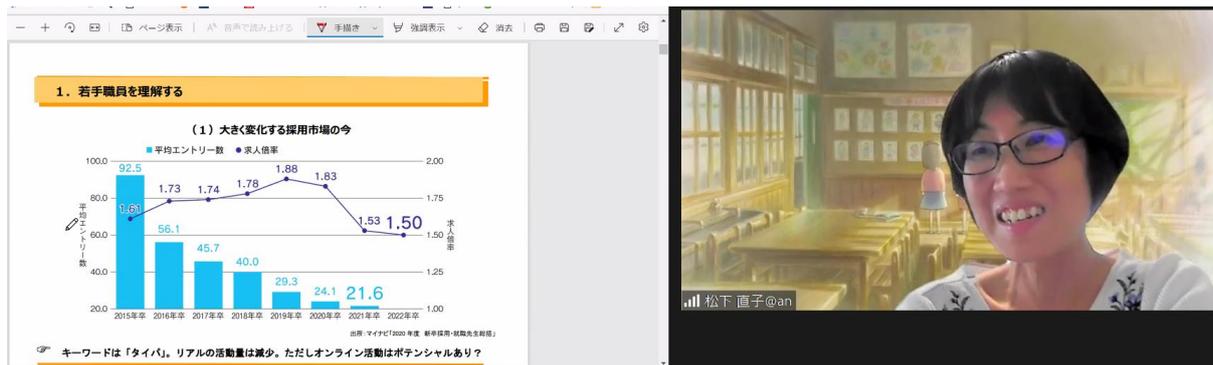
本会は9月1日と2日の両日、厚生連病院事務部長セミナーをWEBで開催し、21厚生連から122名が参加した。

本セミナーは、病院経営全般にかかる情報の取得、厚生連病院事務部長間の連携の促進を図ることを目的に開催しており、1日目は「我が国の病院と医療提供体制の目指す姿」（相澤孝夫・一般社団法人日本病院会 会長）と、「Z世代の人材育成（コロナ禍での新人育成・離職防止）～売り手市場の今、せっかく採用した人材を活躍させよう。～」（松下直子・株式会社オフィスあん 代表取締役）の講演2題が、2日目は「2022年診療報酬改定の振り返りと2024年診療報酬改定の方向性」（中林 梓・株式会社ASK梓診療報酬研究所 所長）の講演が行われた。

講演の中で相澤氏は、「治す医療」と「支える医療」を実現するために、広域型病院と地域型病院の創設提言や、十分なコミュニケーションと相互理解による良好な人間関係、多職種協働の組織文化がチーム医療を推進することなどについて説明した。

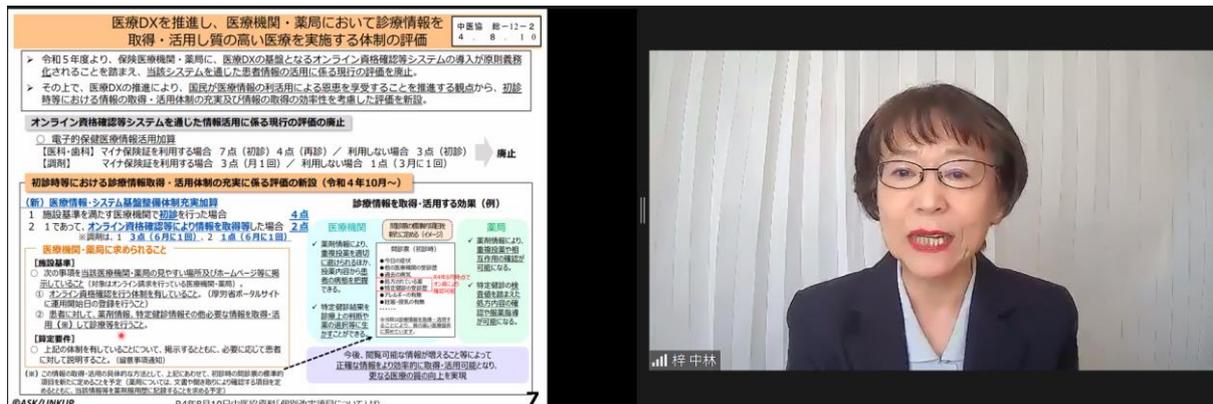
相澤氏講演の様子

松下氏は、Z世代の人材育成において、対話することが重要だと述べ、飲料メーカーの事例等を交えながら、どのように若手職員と向き合っていくべきなのかについて説明を行った。



松下氏講演の様子

中林氏は、2022年診療報酬改定について、新たに追加された加算や、10月から変更されるオンライン資格確認や看護職員処遇改善評価料の新設について、注意すべき点を説明した。また、今後の診療報酬改定の方向性について説明を行った。



中林氏講演の様子

## 財務会計の応用について研修

### 厚生連経営管理職層育成研修会（応用編第1クール）をWEB開催

本会は9月12日、13日の両日、厚生連経営管理職層育成研修会（応用編第1クール）をWEBで開催し、9厚生連から19名が参加した。

本研修会は、将来、病院・施設の運営および管理を担う事務職を対象に、経営管理に必要な財務知識の習得とマネジメント能力の向上を図るとともに、研修参加者相互の情報交換・ネットワーク作りを目的として、平成23年度より開催している。なお、経営管理に必要な財務知識の理解を深めるとともに、実践での応用をめざし、基礎編（年間3クール）と応用編（年間2クール）に階層化して開催している。

研修会の形式は、講義・演習・グループディスカッションで構成し、応用編第1クールでは、財務会計の応用をテーマに、事前学習をふまえた基礎編の復習ののち、①財務諸表作成の前提となる内部統制、②病院特有の財務分析、③倒産事例から見る財務諸表、④経営指標の読み解き方について研修を行った。

1日目は、財務諸表の前提となる内部統制をはじめ、病院の医療機能に応じた指標の読み解き方について研修・演習を行った。

2日目は、倒産した病院の財務分析について研修を行った。また、

各種指標から読み取れる経営上の課題および改善策について、グループに分かれてディスカッションを行い、各グループより報告を行った。

次回（応用編第2クール）は、管理会計の応用をテーマに、11月21日、22日の開催を予定している。



研修の様子

## 口通信員だより

## 入院支援室が新しくなりました

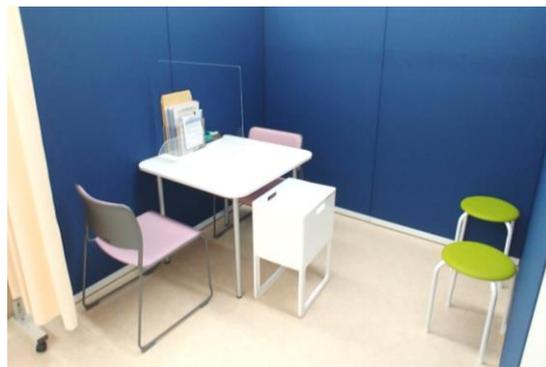
(JA秋田厚生連・秋田厚生医療センター)

4月、秋田厚生医療センター（遠藤和彦病院長）では、入院支援室を整備しました。入院支援室とは、入院が決定した予約入院（緊急入院を除く）の患者さんに対し看護師が説明を行う場所です。パーテーションを設置し、周りを気にせず、より安心して患者さんがお話できる環境を整えました。

入院支援は、入院の必要性を十分に理解することが出来なかつたり、様々な不安を抱えたまま入院となることが無いようにするため、近年多くの総合病院で導入されています。現在、当院では3名の看護師で支援を行っています。

入院が決定すると、外来の診察終了後に入院支援室へお越しいただき、入院中の生活や治療等について入院案内やクリニカルパス（※）に沿って説明します。一般的な入院生活などの内容に加え、患者さんの個別性に配慮し、患者さんやご家族の不安をお伺いします。お伺いした内容によって院内の専門分野の職種と連携を取り、その場で対応します。直接患者さんとお話することで、外来診察時に主治医に話せなかった事や、聞く事が出来なかったことを打ち明けられる患者さんもいます。

健康である事が一番大切ですが、入院する事が決まった際に不安な事がありましたらお申し出下さい。今後も、患者さんが安心して治療に臨むことができ、よりよい生活を送る支援が出来るように努めてまいります。



入院支援室



入院支援室看護師

※クリニカルパス…病気の治療や検査に対して、標準化された患者さんのスケジュールを表にまとめたもの。クリニカルパスが作成されていない病気や検査の場合はお渡ししない事もあります。

(三浦由佳通信員)

## 医事課業務改善への取り組みと報告会の開催

(JA秋田厚生連・能代厚生医療センター)

能代厚生医療センター（太田原康成病院長）の医事課では、令和3年度より入院会計担当事務のチーム制を導入し、業務効率化に取り組んでいます。

医事課のチーム制は、業務ごとにチームで分担することで業務の効率化・標準化等を図ることを目的としました。これまでは、各担当事務でそれぞれの担当業務の全てを担っていましたが、昨年度から「データ入力チーム」と「会計出力チーム」の2チームを構成し、チーム制を始動しました。結果として、共通業務の標準化を実現し、時間外業務削減を達成することができました。また、業務改善の一環として、退院時会計のフローも見直したことで、退院時会計の当日精算率も大幅に向上しました。

厚生連病院の医事課全体で業務改善に取り組んでいく上で、当院チーム制の実績報告と厚生連病院同士の情報共有・意見交換の場として5月20日に報告会を当院で開催しました。報告会では、当院チーム制の運用方法や導入後の結果、進捗状況、課題点等についての報告を行ったほか、実際の業務場面の見学も行いました。報告会と業務見学では活発な質疑応答がなされ、各病院の業務改善への関心の高さを垣間見ることができました。当院も他病院の現状や取り組みを知ることができ、有意義な時間を過ごすことができました。

今後も現在のチーム制の更なる改善を図りながら、日々の業務効率化に取り組むと考えています。



医事課業務改善報告会の様子

(三浦由佳通信員)

## 第70回福島県農村医学会学術総会 初のWEBにて開催

(JA福島厚生連)

JA福島厚生連（高久忠・代表理事理事長）は第70回福島県農村医学会学術総会を、本学会初のWEB型式で開催しました。

今回はJA福島厚生連塙厚生病院 佐川恵一病院長が学会長を務め、7月25日から8月31日までの期間で特設サイトを開設し、特別講演、会員の研究発表をオンデマンド配信方式で配信しました。



特設サイトのホーム画面

同学会の重富秀一理事長、佐川恵一学会長（塙厚生病院長）のあいさつについても事前収録し配信しました。

重富理事長は「前回、前々回と学術発表を中止しており、今回は何としても開催したかった。佐川学会長の強い思いで、初のWEB開催となった。私たちは日々進化する医療に対してその知識と技術を学び、地域に還元しなければならない。本学会を通じて研鑽を深めていただきたい。」と述べました。



重富理事長のあいさつ

特別講演では福島県立医科大学形成外科学講座主任教授の小山明彦先生を講師にお迎えし、「形成外科の今：頭蓋顎顔面外科の革新」と題した講演を事前収録し、オンデマンド配信しました。

また、会員の学術発表は一般演題 26 題と現地開催に引けを取らない内容で、多くの発表が行われ日頃の研究の成果の発表をオンデマンド配信しました。

期間中はJA福島厚生連の病院、老人保健施設の医師、看護師ら多くの会員の方々に視聴して頂きました。



特別講演

(佐藤剛通信員)

## 第80回関東農村医学会学術総会

(JA茨城県厚生連・茨城西南医療センター病院)

JA茨城県厚生連(酒井義法・代表理事理事長)が運営する茨城西南医療センター病院(野村明広病院長)において、9月10日、第80回関東農村医学会がWEBにて開催されました。

未だ新型コロナウイルスは終息せず、超高齢社会、医師の偏在や働き方改革への対応など多くの課題を抱えている状況の中で、これから中核病院がどのように機能していくのかを主眼に置いた、「未来志向の地域医療 ～これからの中核病院が目指すもの～」が今回のテーマとなりました。

学会長である野村明広病院長は、開会のあいさつで「新型コロナウイルスの感染が蔓延し、院内感染リスクに隣り合わせで各医療機関は大変苦勞されている。今回はそのような沈滞ムードを払拭し、将来のために明るく前を向けるような学会としたい」と話しました。

約70の演題が医師をはじめとする各部門の医療従事者から発表され、新たな発見や情報共有など参加者にとって非常に有意義な場となりました。

最後には、筑波大学システム情報系教授 山海 嘉之 先生による「地域・広域医療の未来を支えるサイバニクス 医療イノベーション」の講演があり、未来における医療の方向性の一つとしてITを利用した医療に関する紹介と説明がされました。

閉会のあいさつで、野村病院長は「今回得られた知識を是非とも現場に活用し、今後の地域医療の発展に繋がれば嬉しく思う」と話し、学会は無事終了となりました。



野村病院長による学会開会のあいさつ

(酒井一彦通信員)

## 阿部看護部長がタウンニュースの取材を受けました

(JA神奈川県厚生連・相模原協同病院)

令和4年6月17日付で、相模原協同病院（井關治和病院長）、阿部徳子看護部長が医療福祉の広報活動や県内看護師の教育などを行う神奈川県看護協会の相模原支部長に就任しました。このことを受け、阿部看護部長がタウンニュースの取材を受けました。

取材の中で、「相模原市に住んで良かったと患者さんに思ってもらえるようにサポートをしていきたい」「患者さんにそっと寄り添える存在になりたい」などの思いや、看護師になってよかったと思えた瞬間のエピソード、休日の過ごし方や趣味など、普段あまり聞くことの出来ない貴重なお話をされていました。



阿部看護部長



取材を受ける阿部看護部長

(新嶋友梨恵通信員)

## 看護学生対象のインターンシップを開催

(JA神奈川県厚生連・相模原協同病院)

相模原協同病院（井關治和病院長）では令和4年8月9日、10日に看護学生対象のインターンシップを開催しました。看護部長の挨拶から始まり、当院の歴史や、看護部の特徴、BLS講習会が行われました。その後、グループに分かれ病院内の見学が行われ、さまざまな場所で実際に働いている看護師から話を聞きました。

病院見学の後は、病棟より2～3年目の看護師がグループに入り座談会が行われ、どのグループも時間ギリギリまで会話が飛び交っていました。半日ではありますが、参加された学生さんにとって有意義な時間になったのではないのでしょうか。



阿部看護部長の挨拶



BLS講習



IVR室見学



救急外来見学



ドクターカー見学



先輩看護師との座談会

(新嶋友梨恵通信員)

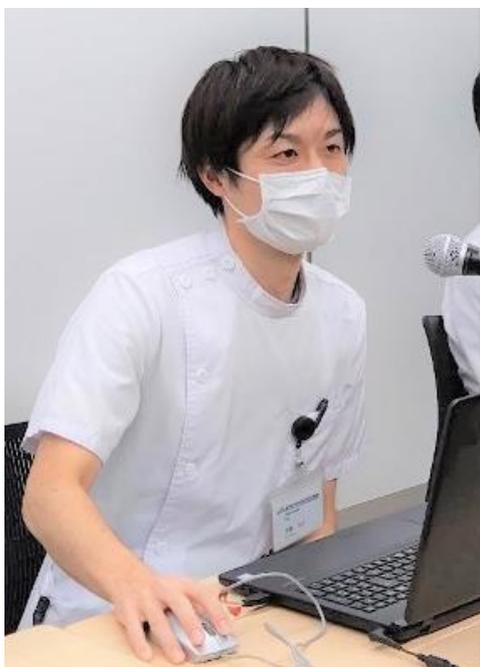
## 伊勢原協同病院薬局主催で 地域医療連携薬局研修会を開催

(JA神奈川県厚生連・伊勢原協同病院)

伊勢原協同病院（鎌田修博病院長）は、令和4年8月18日に「地域医療連携薬局研修会」をオンラインで開催をいたしました。

同院の加藤洋介薬剤師からは「手足症候群の対策について」の講演を行いました、特別講演として同院診療部統括部長の壁島康郎医師から「大腸がんにおける薬物療法について」の講演を行いました。保険薬局の薬剤師56名と、病院薬剤師を含め合計70名と多くの方にご参加いただきました。

参加者からは「手足症候群について症状から対策まで学ぶことができ大変参考になりました」「がんの発生から外科的治療、術後化学療法の重要性、用いられる薬の特徴など詳しく話していただき大変勉強になりました」「次回もぜひ参加したい」など好評を頂きました。今後も本研修会を継続的に開催し、地域の保険薬局との連携強化を図ってまいります。



薬局 加藤薬剤師



診療部統括部長 壁島医師

(新嶋友梨恵通信員)

## 岐阜県「地域医療を支える人づくり事業」 の実施について

(JA岐阜厚生連・中濃厚生病院)

中濃厚生病院(赤松繁病院長)は、8月23日に岐阜県の「地域医療を支えるひとづくり事業」※の一環として、将来、医師を目指している県内の中学生・高校生を対象とした医療実習体験・セミナーを開催しました。

小児科、麻酔科、救急科の診療科で合計10名が参加し、新生児蘇生法の体験や中央手術室内の見学、救急車対応現場・ヘリポートの見学などを行いました。

参加した中高生は、「TVやドラマでしか見たことのない医療現場を実際に見ることが出来たおかげで、医学部を志望する気持ちがより強くなった」と話していました。

今後もこのような体験セミナーを継続的に開催し、医療への理解を深めてもらい、将来、この地域の医療を支えてくれる人材確保に繋がりたいと思います。

### ※「地域医療を支える人づくり事業」

産婦人科や小児科の医師の増加・偏在の解消が課題となっているなか、医療の現場体験等を通じて医師の職業の重要性等について理解を深め、医学部を志す中高生の育成を図る。



新生児蘇生法説明の様子

(寺師史華通信員)

# 各事業所にて永年勤続表彰を行いました

(JA愛知厚生連)

令和4年8月下旬から9月にかけてJA愛知厚生連(宇野修二・代表理事理事長)の各事業所にて令和4年度の永年勤続表彰が行われました。永年勤続表彰とは、JA愛知厚生連に長く勤めた職員の皆さんへ、これまでの働きへの感謝や、これからへの期待などを伝える制度です。勤続表彰となった方には豪華記念品が贈呈されました。

勤続30年…63名

勤続20年…105名

勤続10年…208名

※8月25日に予定されていた会全体の永年勤続表彰式(勤続30年・20年の方々が対象)は延期となりました。

## 永年勤続 おめでとうございます

2022年8月下旬から9月にかけて各事業所にて令和4年度の永年勤続表彰が行われました。永年勤続表彰とは、JA愛知厚生連に長く勤めた職員の皆さんへ、これまでの働きへの感謝や、これからへの期待などを伝える制度です。表彰を受けた皆様、誠にありがとうございます。

※8月25日に予定されていた永年勤続表彰式(勤続30年・20年の方々が対象)は延期となりました。



▲8/23 豊田厚生病院



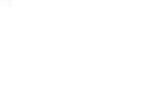
▲8/23 稲沢厚生病院



▲8/26 見沼病院



▲9/5 海陽病院



▲9/29 津師



▲8/29 安良野厚生病院



▲8/31 江南厚生病院

※温美病院・知多厚生病院は延期(開催未定)となりました。

---

### 令和4年度 永年勤続表彰受賞の皆様へ

永年勤続の表彰を受けた皆様、誠にありがとうございます。

勤続30年を以て20年・10年の大賞褒章にわたり本会ならびに各商社の発展と地域貢献にご貢献を賜りましたこと、改めて感謝申し上げます。また、依然として注目の見通しが立たない新型コロナウイルスとの闘いにおいてもご尽力いただいております。皆様方の取り組みに改めて敬意と感謝いたします。

さて、皆様がこれまで平素の矜持は、地味な設備化の進捗や定額給付金受給業務の増や、同様に電子カルテの導入が次々と進められるなど本会の大きな変遷期でありました。また、平素から令和にかけては、地価高騰の中で、医療機関の見直しや再編が行われています。

皆様は先人が経験したことのない、時代が変遷が大変激化する、その時(令和)に何が求められ、その変化にどう対応し、乗り切られてきたかに皆様の方々であります。変遷する時代の変化に改めてお慶びを申し上げます。

令和4年8月  
JA愛知厚生連 代表理事理事長  
宇野 修二

### 入職時はどんな時代??

勤続年数	本会の動き	一般状況
30年	1990(平成2)年度 * 設立後、診療・検査施設工事 * 地味な設備化が進む 1991(平成3)年度 * 知多厚生病院 診療科増設 * 11月(旧)東三土曜日休診開始による週二日勤務実施 * 例年不況による給与削減 * 厚生年金は1/4削減(労務労務)	* 高齢者福祉施設(有料老人ホーム)を創設した資本 * 任天堂のスーパーファミコンが発表 * 東芝デジタルカメラの発表 * 大規模な海外進出(人件費)として初めて韓国(韓国)
20年	1997(平成9)年度 * 第1次大規模な(旧)安良野病院・津師から上から5年長年・異動・異動 1998(平成10)年度 * 第2次大規模な(旧)安良野病院・津師から上から5年長年・異動 1999(平成11)年度 * 第3次大規模な(旧)安良野病院・津師から上から5年長年・異動 2000(平成12)年度 * 第4次大規模な(旧)安良野病院・津師から上から5年長年・異動 2001(平成13)年度 * 第5次大規模な(旧)安良野病院・津師から上から5年長年・異動 2002(平成14)年度 * 第6次大規模な(旧)安良野病院・津師から上から5年長年・異動	* 豊田80周年記念イベント * 各地域の海外旅行が日本全国で始まる * マカオが10月1日から中国に編入される * 東洋経済 * 第4次大規模な(旧)安良野病院・津師から上から5年長年・異動 * 東芝デジタルカメラの発表 * アップルのiPhoneが発表
10年	2008(平成20) - 2012(平成24)年度 * 第7次大規模な(旧)安良野病院・津師から上から5年長年・異動 2009(平成21)年度 * 第8次大規模な(旧)安良野病院・津師から上から5年長年・異動 2010(平成22)年度 * 第9次大規模な(旧)安良野病院・津師から上から5年長年・異動 2011(平成23)年度 * 第10次大規模な(旧)安良野病院・津師から上から5年長年・異動 2012(平成24)年度 * 第11次大規模な(旧)安良野病院・津師から上から5年長年・異動	* 東洋経済 * 第4次大規模な(旧)安良野病院・津師から上から5年長年・異動 * 東芝デジタルカメラの発表 * アップルのiPhoneが発表

### 今年度の豪華記念品を一部紹介します!

30年



プラズマクラスターNEXT  
超音波洗浄機・ヘルソアープレンジング  
VIERA(テレビ49型)  
4K液晶テレビ・スマートHLSスピーカー  
ギフト券1万円分など

20年



ウルトラアライメント  
ミラブルplus+ヘアケア  
ドライヤー・ヘアケアセット  
ギフト券1万円分など

10年



セラレトワークウェア・コンパクト  
ネットプリント&印刷セット  
スマートTV・ヘアケアセット  
ギフト券1万円分など

職員向け広報誌「こうせい」の特集で紹介しています

(井桁千聡通信員)

- 14 -

## 敷地内薬局工事安全祈願祭を行いました

(JA愛知厚生連・渥美病院)

渥美病院（吉田昌弘病院長）では8月2日、敷地内薬局工事安全祈願祭を執り行いました。令和5年3月、病院敷地内（第一駐車場正面玄関側）に調剤薬局がオープンする予定です。敷地内薬局は病院が運営する薬局ではありませんが、患者さんにとっては調剤薬局の選択肢が増えたり移動距離・時間の負担が軽減するなど利便性が向上します。8月17日には工事も始まり、現在は薬局建設地の造成工事等を進めております。



安全祈願祭の様子



工事エリアの現在の状況



渥美病院敷地内薬局増築工事 完成予想図

株式会社 清水 you 建築設計

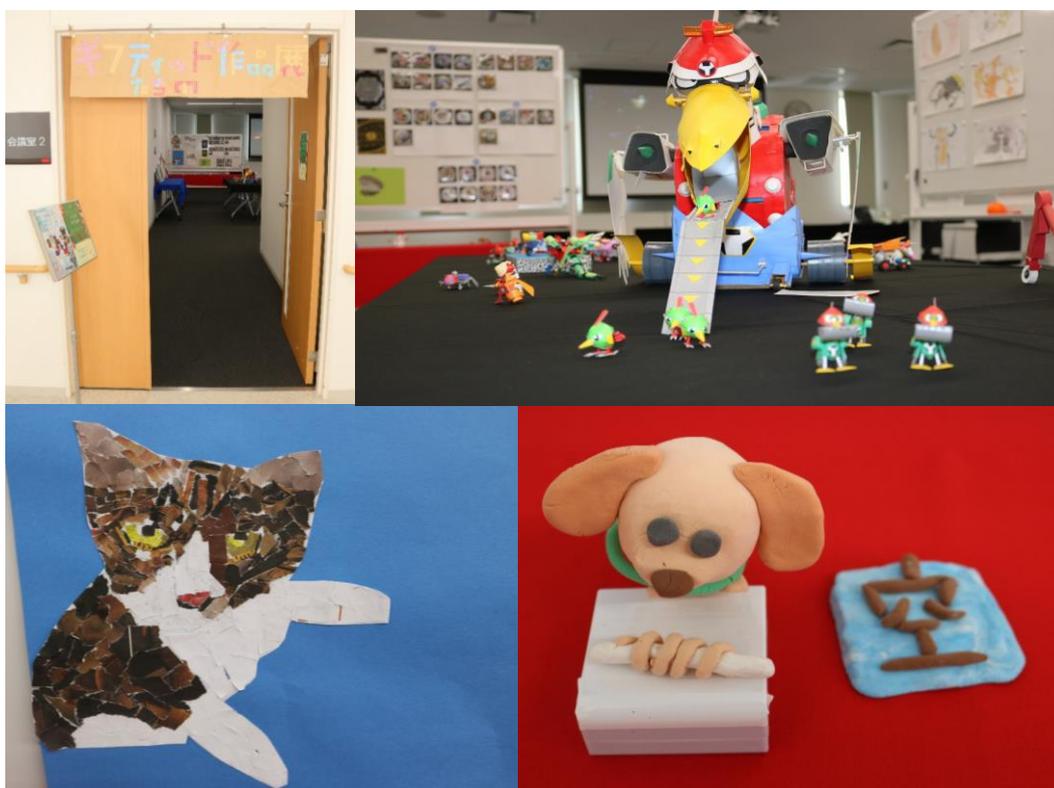
完成予想図

(井桁千聡通信員)

## 「ギフトィッドたちの作品展」を開催しました

(JA愛知厚生連・海南病院)

海南病院（奥村明彦病院長）では、毎年ギフトィッドたちの作品展を開催しています。8月29日は感染対策を講じて3年ぶりに「作品展」を実開催することができました。来場いただいた方に直接素敵な作品の数々をお楽しみいただけました。



コミュニケーションが苦手な方でも作品で思いを表現します

ギフトィッド…定義は一つではありませんが、「一つの分野あるいは複数の分野で非常に優れた能力を持っている人」のことを言います。

(井桁千聡通信員)

## J A香川県から寄付をいただきました

( J A香川厚生連)

J A香川厚生連(田宮隆・代表理事理事長)は、令和4年8月17日にJ A香川県からJ A香川県SDGs地域応援定期貯金「きずな」を活用した寄付金を贈呈していただきました。定期貯金「きずな」は、J A香川県が期間中に受け入れた定期貯金残高の0.01%相当の金品等を負担して、地域のフードバンクや医療従事者等に支援を行う取り組みで、第1回目は4月1日から5月31日まで実施されました。

贈呈式では、J A香川県の村川進代表理事理事長から「J A香川県はSDGsへの取り組みの一つとして『きずな』を企画した。ぜひ、新型コロナウイルスへの対応や地域医療のために役立てて欲しい。」と挨拶がありました。

J A香川厚生連の田宮隆代表理事理事長は、「現在、医療従事者は新型コロナウイルスへの対応に追われており、皆様からの労いの言葉や支援は何よりの励みです。引き続き地域医療に貢献できるよう取り組んでまいります。」と謝辞を述べられました。



贈呈式の様子(村川理事長(左)より目録を受け取る田宮理事長(右))

(武内あかね通信員)